

第11回 住宅系 研究報告会

会場：建築会館会議室

2016年12月2日(金)、12月3日(土)

昨年度に引き続き、横断的な発表・討論の場を設定し、研究成果の共有、研究者間の交流を目的に、第11回目住宅系研究報告会を開催します。

発表論文は21編、優れた論文が集まりました。報告会では発表・討論の機会を重視し、司会とは別にコメンテーターを設け、意見交換や議論を通してさらに研究や活動が発展することを目指しています。

第二日目午後には、講演会・座談会を開催し、総合的な議論の機会を設けます。

住宅・住宅系まちづくりの研究に取り組む研究者・大学院生の、多数のご参加をお待ちしています。

□1日目 (12月2日)

開会挨拶・主旨説明:山本幸子(筑波大学)	13:15~13:30	(C)コメンテーター
セッション1 [住空間・住様式のモデル]	13:30~14:30	3編 (C)花里 俊廣(筑波大学)
セッション2 [復興プロセスと住まいの諸相]	14:45~16:00	4編 (C)中島 伸(東京大学)
セッション3 [伝統的な地域資源の評価と継承]	16:15~17:15	3編 (C)平田 隆行(和歌山大学)

□2日目 (12月3日)

セッション4 [コミュニティ活動と地域づくり]	9:45~11:00	4編 (C)碓田 智子(大阪教育大学)
セッション5 [居住継続の支援策]	11:15~12:15	3編 (C)長谷川 洋(国土技術政策総合研究所)
セッション6 [住宅地の更新と持続可能性]	13:15~14:30	4編 (C)桑田 仁(芝浦工業大学)
講演会・座談会	14:45~16:45	

【テーマ】「越境する住宅系研究の展望:平山洋介氏と語る」

【趣旨】

分野横断を意図して始まった住宅系研究報告会も「次の10年」に入る。これからの社会はますます複雑に不安定になっていくように見える。前提を異にする他者と議論する機会の意義が高まるなかで、研究はどのような役割を果たすことができるだろうか。

今回は、日本の住宅政策や住宅事情について、分野横断的に研究活動を展開され、その成果を国内外に発信しつづけてこられた平山洋介氏をお招きして、これまでの研究活動の軌跡をお話いただく。その上で、海外や異分野との他流試合、制度や実践と研究との関係、住宅・居住という不動点の意義などを話題として研究の方法と戦略を議論する。住宅系研究の「次の10年」を展望する機会としたい。

【進行】

小山雄資(鹿児島大学)

閉会の挨拶:長谷川 洋(前掲) 16:45~17:00

懇親会 17:30~

●参加費:会員 3,000 円、会員外 4,000 円、学生 1,500 円

●資料代: 5,000 円 ●定員: 90 名(当日先着順)